

第30回
NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会
プログラム・抄録集

期日：2018年12月8日（土）

会場：大阪府歯科医師会館 大ホール（4階）

大会長 田中 昌博

大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座

9 00

3,000

1,000

4,000

10

10

Power Point

12 14

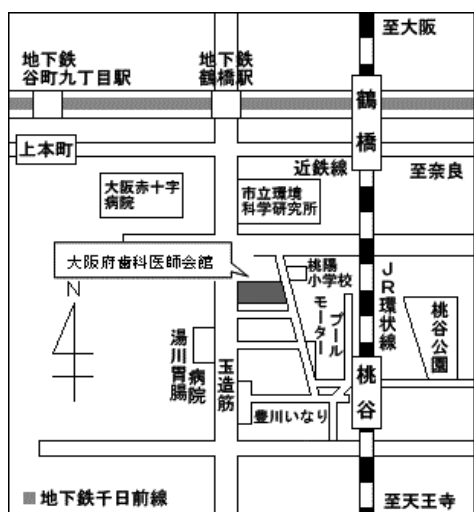
k30jss@cc.osaka-dent.ac.jp

12 15

会場案内

会場 大阪府歯科医師会館 大ホール（4階）

交通アクセス



天王寺方面から
JR環状線 桃谷駅下車
北西（鶴橋方面）へ徒歩約5分

鶴橋方面から
地下鉄千日前線 鶴橋駅下車
（3番出口）南へ徒歩約8分
近鉄奈良線大阪線 鶴橋駅下車
（西出口）南へ徒歩約8分

プログラム

- 10 : 00～10 : 05 開会の辞 大会長 田中昌博
- 10 : 05～10 : 37 臨床研究、その他 一般演題 1～4 座長 町田好聡 (滋賀医科大学)
1. 女性における歯の露出した笑顔が人の印象に及ぼす影響
大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座 糸田理沙、他
 2. 臼歯部歯根膜触・圧覚閾値の20歳代における基準範囲の中高齢者への適用
大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座 神田龍平、他
 3. 認知症高齢者に対しアイトラッカーを用いて食品の嗜好と視線に関連がみられた1例
大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座 安井由香、他
 4. シクロホスファミド投与がマウスの大白歯歯胚形成を阻害する
大阪大学大学院歯学研究科顎顔面口腔矯正学教室 中津川昂平、他
- 10 : 37～11 : 09 良性腫瘍、その他 一般演題 5～8 座長 榎本明史 (近畿大学)
5. 下顎角部に生じた骨内脂肪腫の1例
兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 服部洋一、他
 6. 下顎に生じた歯原性線維腫の1例
神戸市立医療センター中央市民病院歯科口腔外科 向仲佑美香、他
 7. 右側上顎歯肉歯槽粘膜に発生した疣贅型黄色腫の1例
大阪歯科大学大学院歯学研究科 (口腔外科学専攻) 森本伊視、他
 8. 頬部に生じた結節性筋膜炎の1例
市立伊丹病院歯科口腔外科 榊井敦史、他
- 11 : 09～11 : 41 悪性腫瘍、その他 一般演題 9～12 座長 山口昭彦 (京都大学)
9. 下顎右側歯肉に転移した腫瘍を契機に発見された肺腺扁平上皮癌の1例
滋賀医科大学医学部歯科口腔外科学講座 千葉 惇、他
 10. 下顎歯肉がんに対して口角切開アプローチによる外科治療を行った5症例
近畿大学医学部附属病院歯科口腔外科 木下優子、他
 11. 下顎歯肉癌の化学療法中に上腸間膜動脈虚血症を併発した1例
兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 長谷川淳子、他
 12. メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例
大阪大学大学院歯学研究科口腔外科学第一教室 岸上波輝、他

11 : 41~12 : 13 口腔内装置、その他 一般演題13~16

座長 鈴木 滋 (和歌山県立医科大学)

13. 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死に伴う口腔上顎洞瘻に対して頬脂肪体有茎移植術を用いた2例
京都府立医科大学大学院医学研究科歯科口腔科学 滝沢茂太、他
14. 脳性麻痺患者の頸椎固定術後嚥下障害に対して、軟口蓋挙上装置を適用した1例
和歌山県立医科大学医学部歯科口腔外科学講座 安藤美都、他
15. 口蓋帆挙筋の処理方法による閉鎖機能の違い
大阪大学大学院歯学研究科口腔外科学第一教室 中川記世子、他
16. 大阪医科大学附属病院における睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置を用いた治療と地域連携の取り組み
大阪医科大学医学部感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室 溝渕 祥、他

12 : 15~13 : 00 役員会

13 : 00~13 : 30 総会

13 : 30~14 : 02 臨床症例報告、その他 一般演題17~20

座長 田中 晋 (大阪大学)

17. 智歯抜歯を契機に発見しえたMTX-LPDの1例
大阪医科大学医学部感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室 米永崇利、他
18. 下顎智歯抜歯時に生じた歯根迷入および広範な気腫の1例
神戸市立医療センター中央市民病院歯科口腔外科 甲斐彩華、他
19. 放射線治療患者に対する歯科インプラント治療後に発症した骨折の1例
京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野 名村千晃、他
20. 外傷後の癒痕性変化に伴い開口障害を呈した1例
高島市民病院歯科口腔外科 蔵本達人、他

14 : 02~14 : 34 症候群、その他 一般演題21~24 座長 中野旬之 (大阪医科大学)

21. 小児の頬部に発生した静脈奇形の1例
神戸市立医療センター中央市民病院歯科口腔外科 高橋一広、他
22. 小児の下顎骨に発生した筋線維腫の1例
奈良県立医科大学口腔外科学講座 笠 瑛貴、他
23. 両側口腔底に特徴的な骨種を認めた口・顔・指症候群の一例
大阪母子医療センター口腔外科 薬師寺翔太、他
24. コルネリア・デ・ランゲ症候群患者の抜歯経験
富山県立中央病院歯科・口腔外科 中條智恵、他

- 14 : 34～15 : 04 理事長講演 座長 古郷幹彦 (大阪大学)
 日本口腔科学会の事業計画 理事長 丹沢秀樹先生
 NPO 法人 日本口腔科学会
- 15 : 04～16 : 04 学術研修会 座長 田中昌博 (大阪歯科大学)
 「エナメル上皮腫の診療ガイドライン 2015年度版 (日本口腔腫瘍学会編)」について 森田章介先生
 大阪歯科大学名誉教授
- 16 : 04～16 : 36 その他 一般演題25～28 座長 山田耕治 (大阪歯科大学)
25. 第 Xa 因子阻害薬服用患者抜歯後に生じた顎下部血腫の 1 治験例
 京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野 赤井香耶、他
26. I 型糖尿病を有した患者における下顎隆起形成術の 1 例
 京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野 藤井伸夫、他
27. 根未完成歯に生じた歯根嚢胞に対して嚢胞摘出術と MTA セメントによる根尖閉鎖を施行した
 1 例
 大阪歯科大学口腔外科学第 1 講座 河野多香子、他
28. 術中に減量を行った比較的大きな口底類皮嚢胞の 1 例
 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔病態制御学講座口腔外科学第二教室 泉 彩夏、他
- 16 : 36～16 : 41 閉会の辞 大会長 田中昌博

理 事 長 講 演 抄 録

日本口腔科学会の事業計画

NPO 法人 日本口腔科学会
理事長 丹沢 秀樹

口腔には多くの器官と機能があり、細分化された多彩な学問・医療技術が発展してきました。たとえ、免許・資格が医科と歯科に分かれ、学会が日本医学会と日本歯科医学会の分科会に分かれていても、個別の技術や知識だけでなく、口腔各分野の医療知識・技術を総合的に理解し、互いに「Respect」を持った連携を取ることが、「口腔科」担当者には必要です。本学会は日本医学会が100年以上前から「口腔科」として認定した第31分科会であり、「口腔の専門科」です。成書「口腔科学」（戸塚、高戸前理事長編纂、朝倉書店、2013）により、学問・診療領域が示されています。口腔領域全て、口腔と全身、歯科医療と内科医療との連携など、全ての学問・医療分野をカバーするための事業を計画・実行しています。特に以下の項目を重点事業と考えています。

- ・ 領域横断的な視野の育成と情報提供：和文誌。多様な分野の専門家・権威による「依頼総説」の掲載（がんに対しては、免疫療法、分子標的治療薬、抗がん剤治療の基礎、細菌学としては、重症感染症、細菌毒素、腸内細菌、ウイルスに関する記事を、また、薬剤開発に関してはドラッグ・リポジショニング、薬剤開発の実際に関する記事を、さらに、工学の応用として汎用ロボット工学とロボット医学に関する記事を掲載してきました。今後、アレルギー、免疫チェックポイント阻害剤などの記事も掲載予定です。是非、学生や若手人材の教育にも活用していただけると幸いです。また、下記の OSI の項にも記載いたしました。すぐれた論文は英文に翻訳して、OSI 誌に掲載させていただく方針です。
- ・ 英文誌 Oral Science International：ESCI (Emerging Source Citation Index) に入りましたが、PubMed への収載も IF 取得も現在、目処が立っていません。論文数が少ないのが一番の原因です。このため、出版社を Elsevier から Wiley に変更し、電子ジャーナルとして、OSI 専門担当理事を3名お願いして仕切り直しての再出発といたします。和文誌の特別企画記事や優れた原著などを英文翻訳して掲載したり（再出版）、世界的な専門家・権威に review の執筆を依頼したりする他、学術委員会の調査研究をまとめて英文論文として掲載する方針です。幸い、現在行われている調査研究は、多くの論文として成果を発表できる内容であり、かなり掲載記事の数と質の両面で期待できます。今まで論文投稿を待っていたのですが、これからは、自らの手で作成もしていく覚悟です。ぜひ、皆様の投稿をお願いします。
- ・ 若手の英文論文執筆の登竜門、英文単行本 Oral Science in Japan：年1冊発行。JST から学術誌として認定・登録されました。2014年度は20数編、2015年度は40数編、2016年度は24編、2017年は26編の記事を収載しました。なお、内容の優れた論文は、OSI に再出版とさせていただく方針です。過去の（2014年から2017年の収載記事に関しても、同様な方針です）
- ・ 人材育成・教育システム：評価制度として認定医制度が開始されました。この制度の上に日本医学会としての認定医育成カリキュラムと専門医（総合医）教育カリキュラムを展開しています。教育研修会を、総会学術大会と各地方部会学術集会において開催し（計年7回）、どの地方部会に所属している会員であっても、どの地方部会の学術集会に参加して、学術研修会を受講することができるようにしました。これらの学術集会開催経費に関して、出来るだけ会員に新たな負担を強いることが少ないように、学会本部として頑張りたいと考えています。さらに、病院歯科を始めとする、評議員不在の施設でも認定研修施設として申請できるように、制度を変更いたしました。
- ・ 研究奨励・振興：科学研究費補助金、AMED、各種財団学術補助金などをはじめとする研究費補助金事業が制度改革という名の大きな波に晒されています。この変化に対応するための対応を検討していきます。昨春の総会・学術大会時に学術研修会で研究の計画立案法と科研費・AMED の制度改革に関する講演を行いました。今後、共同研究やプロジェクト研究のプラットフォームを構築していく所存です。口腔領域の研究者への研究費の配分を確保するために、学会を活用していただけるように努力いたします。
- ・ 研究者支援：本学会は、単に臨床家のための学会ではありません。基礎から臨床、さらには周辺科学まで包含した「口腔科学研究者」のための学会です。このため、研究者の顕彰・表彰、研究費支援などを進めていきたいと考えています。現在すでに、宿題報告や指名報告における選考において、臨床系と基礎（研究）系に配慮して、1名に限らず2名（両分野から1名ずつ）の選出を行えるように配慮しています。今後、細菌学会をはじめとする「# #賞」のような制度を設立するか、あるいは、研究費補助制度を設けて、100万円程度の研究費や、50万円程度の海外研究渡航補助金などの制度を設立することを検討するべきであると考えています。今後予定されている諸経費の値上げや消費税アップなどの影響も考慮して、皆様、特に基礎研究者のご意見を今年度中に集めて、制度設計を行いたいと考えています。

限られたマンパワーと予算ではありますが、皆様のご意見をいただきながら、少しでも学会を活性化していきたいと願ってやみません。

丹沢 秀樹 略歴



丹沢 秀樹 (たんざわ ひでき)

現職

千葉大学大学院医学研究院口腔科学 教授
千葉大学医学部附属病院歯科・顎・口腔外科 科長
千葉大学大学院医学研究院 副研究院長

学歴・職歴

1982年 千葉大学医学部卒業、
1986年 東京医科歯科大学歯学部卒業、
1991年 千葉大学大学院医学研究課程修了
1997年 千葉大学医学部 教授
2001年～現在 千葉大学大学院医学研究院 教授
2005年～現在 千葉大学大学院医学研究院 副研究院長

学術・歯科医療関係

1994～1995年 Visiting Scholar, University of North Carolina (USA) (留学)
1995～1996年 Visiting Professor, University of North Carolina (USA)
2000年～現在 Oral Oncology 誌 Editor.
2008年～現在 Oral Oncology 誌 Senior Adviser
2005年～現在 日本歯科顎口腔外傷学会 理事
2010年～現在 日本口腔科学会 副理事長
2014年～現在 日本口腔科学会 理事長
2014年～現在 日本口腔外科学会 理事
2015年～現在 日本口腔内科学会 理事
2002年～現在 最高裁判所任命 専門委員
2005年～2015年 日本学術振興会学術システム研究センター 専門研究員
2008年～2014年 内閣府 日本学術会議 連携会員
2014年～現在 内閣府 日本学術会議 会員
2005年～現在 厚生労働省 医道審議会歯科分科会 (国家試験・研修等委員会) 委員
2013年～現在 厚生労働省 中央社会保険医療協議会 専門委員
2003年～2012年 千葉県歯科医療協議会 会長
2012年～現在 千葉県歯口腔保険審議会 会長

大型プロジェクト関係 (大型外部資金)

2003年～2007年 21世紀 COE プログラム・拠点リーダー
2007年～2011年 がんプロフェッショナル養成プラン
(千葉大学、筑波大学、埼玉医科大学共同事業。千葉大学主幹) 代表責任者
2007年～2010年 日本科学技術振興機構 (JST) 独創的シーズ委託開発事業
(開発実施企業：高信化学株式会社) 代表研究者

学 術 研 修 会 抄 録

「エナメル上皮腫の診療ガイドライン 2015年度版（日本口腔腫瘍学会編）」について

大阪歯科大学名誉教授 森田 章介

「エナメル上皮腫の診療ガイドライン 2015年度版（日本口腔腫瘍学会編）」が2015年12月に学術社から発刊されてから約3年が経過した。この診療ガイドラインは2005年 WHO 分類を基盤にしたものである。一方、2017年1月に12年ぶりに改訂された2017年 WHO 分類が出版された。このなかでエナメル上皮腫の分類も変更されており、「エナメル上皮腫の診療ガイドライン 2015年度版」の改訂も数年後には必要と思われる。

本日は「エナメル上皮腫の診療ガイドライン 2015年度版」作成の経緯とその内容、特にエナメル上皮腫の治療に関して私見を交え述べる予定である。

日本口腔腫瘍学会では「口腔癌診療ガイドライン」作成が行われていたが、歯原性腫瘍に関する診療ガイドラインについては取り上げられていなかった。2005年2月に当時の岡部貞夫理事長に歯原性腫瘍の診療ガイドラインをと提案し、「歯原性腫瘍治療のガイドライン」ワーキング・グループが立ち上げられた。まず、2005年 WHO 分類を用いた歯原性腫瘍の臨床統計を日本口腔腫瘍学会評議員の施設を対象として実施した。当時の本邦における歯原性腫瘍に関する臨床統計調査は、日本口腔外科学会の1986年～1995年を対象として1998年 WHO 分類を用いたものであった。この結果は、「2005年新 WHO 国際分類による歯原性腫瘍の発生状況に関する疫学的研究」と題して公表された（口腔腫瘍 2008；20(4)：245-254）。次いで、歯原性腫瘍の中でも頻度が高く、治療法に議論があるエナメル上皮腫に着目し、「本邦におけるエナメル上皮腫の病態と治療法に関する疫学的研究」と題する論文を公表した（口腔腫瘍 2009；21(3)：171-181）。これらを踏まえ、世界初のエナメル上皮腫の診療ガイドラインを作成することとなり、「エナメル上皮腫の診療ガイドライン 2015年度版」が出版された。

その中で、治療に関する項で「Clinical Question 1：エナメル上皮腫の手術について顎骨保存外科療法を適応するのはどの場合か。Clinical Question 2：エナメル上皮腫の手術について顎骨切除法を適応するのはどの場合か」という2つの Clinical Question が設定されている。そして、それぞれの手術法の再分類と用語の定義を行ったうえで、Clinical Question 1 に関しては組織型、小児症例および個々の治療法別に再発率を中心に検証を行い、骨外型／周辺型や単嚢胞型、さらに充実型／多房型の一部も適応と考えられるが、単嚢胞型ではサブタイプにより手術法を考慮すること、そして搔爬術や単純な摘出術では再発率が高いことから、周囲骨に対する処置が推奨されるとしている。Clinical Question 2 に関しては切除範囲の設定、組織型、上下顎別等で再発率を中心に検証を行い、エナメル上皮腫のいずれの症例にも適応でき、とくに充実型／多房型や類腱型に用いられることが多く、根治性の高い治療法であるが、年齢、性別、全身状態等を考慮する必要があるとしている。

これらをもとに、画像所見や病理組織所見からエナメル上皮腫の性状について考察し、顎骨保存外科療法を中心に症例に応じた治療法について考えてみたい。

経歴書

名前：森田章介



昭和51年 3月	大阪歯科大学卒業
昭和56年 4月	大阪歯科大学口腔外科学第二講座助手
昭和61年 5月	大阪歯科大学大学院歯学研究科助手
平成 6年 5月	大阪歯科大学大学院歯学研究科講師
平成 7年 8月	大阪歯科大学口腔外科学第二講座講師
平成 9年 4月	大阪歯科大学口腔外科学第二講座助教授
平成14年 4月	大阪歯科大学大学院歯学研究科助教授
平成14年12月	大阪歯科大学口腔外科学第一講座教授
平成15年 2月	大阪歯科大学大学院歯学研究科教授
平成28年 4月	大阪歯科大学附属病院長
平成30年 3月	大阪歯科大学定年退職
平成30年 4月	大阪歯科大学名誉教授